



年 組 名前

道新でワークシート



丁寧にはこりを落とすお身拭い

今年のはこり大仏すつきり

■岩内・帰厚院で「お身拭い」

【岩内】町高台の寺、帰厚院は25日、東京以北で最大の木造大仏とされる大阿弥陀如来像を、今年1年見守ってもらった感謝を込めてほこりを落とす「お身拭い」を行った。

成田賢一住職(43)らがお経を唱えた後、大仏の膝や

胴体などを布で拭き、竹ざおに布をつけたはたきで顔や頭を払った。

大仏のはこりの量は世相を反映するとされる。成田住職は「(胆振東部地震後)2月に胆振で再び大きな地震があり、全国でも台風被害が深刻だったからか、例

年よりほこりの量が多かった。東京五輪・パラリンピックがやって来る来年は、平穏で明るい一年であってほしい」と話した。

大仏は1921年(大正10年)に完成。高さ6・8mで、トドマツなどが使われ金箔が貼られている。69年に町有形文化財第1号に指定された。

(久慈陽太郎)

2019年12月26日(木)朝刊 小樽・後志版 15ページ(記事・写真については二次利用の許諾を得ております)

①「お身拭(ぬぐ)い」とは、何をすることですか。

②この寺では、何を使って「お身拭(ぬぐ)い」をしているか二つ書きましょう。

1.

2.

③大仏(だいぶつ)のはこりの量は世相を反映(はんえい)するとされ、2019年の量は例年と比べて多かったと書いていますが、その理由は何だと住職(じゅうしょく)は考えていますか。一つ書きましょう。